



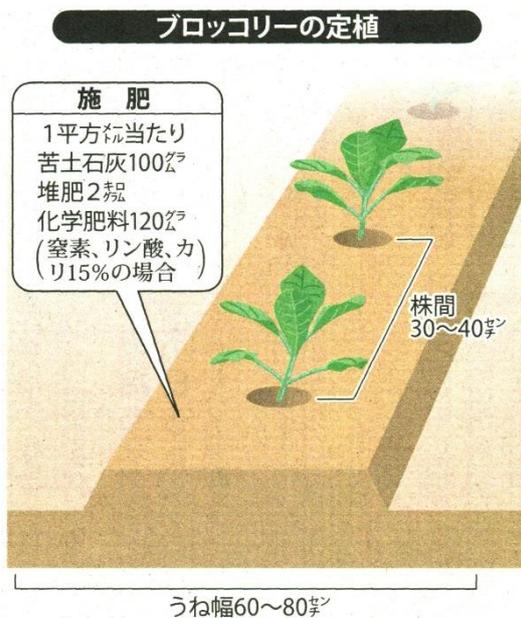
発芽後は適宜かん水

ブロッコリーは花蕾と柔らかい花茎部分を食べる野菜で、ビタミンC、カロテン、カルシウムなどを豊富に含んでいます。サラダやシチュー、炒め物などさまざまな料理に幅広く使われていますが、一般に広く消費されるようになったのは昭和50年代以降です。

花蕾は花芽が分化、発達したものです。この花芽分化には一定の低温が必要で、その程度は品種で大きく異なることから、品種を組み合わせると長期間収穫が楽しめます。今回は夏播き及び秋播き栽培を紹介します。

発芽適温は15～30度、生育適温は15～25度ですが、耐寒性が強く、霜害を受けることは少ないです。土壌は肥沃で、保水力があり、排水のよいほ場が適します。連作やアブラナ科野菜の跡地での栽培は病気になりやすいので避けましょう。作型は夏播き（8月上旬～8月下旬）と秋播き（9月上旬～9月下旬）が一般的です。

育苗方法は地床青首とセル成型苗育苗がありますが、今回は最近利用の多いセル成型苗育苗について紹介します。市販の培土を128穴トレーに詰め、1穴に1粒ずつ種を播き、覆土してかん水後、新聞紙で覆います。発芽したら新聞紙を除き、適宜かん水します。育苗期間中は防虫ネットをトンネル状に張り、さらに高温時は日中遮光しましょう。



本葉2～3枚育苗日数は25～30日で根鉢がぐずれなくなったら定植します。本ぼには1平方メートル当たり苦土石灰100g、堆肥2kg、化学肥料120g（チッ素、リン酸、カリ15%の場合）を目安として施します。栽植密度はうね幅60～80cm、株間30～40cm、1条植えとしますが、一般に早生種では狭く、晩生種では広くします。追肥は2週間後から生育に応じて20g/株を2回程度行い、同時に中耕、土寄せをして倒伏を防止します。

花蕾の大きさが10～12cmになるころに収穫します。収穫が遅れると花蕾がゆるみ、花蕾粒が大きくなり花が咲いてしまうので注意します。

収穫期は夏播きで11～1月、秋播きで1～3月ごろです。品種によっては頂部の花蕾を収穫した後、脇芽からの収穫も楽しめます。

（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室研究専門員）